忍術膝栗毛

海上義俠篇

帝キネ時代映畫

原作並脚色者　江左封　呑兵衛
監督者　江後岳翠
撮影者　和志田誠

――主要役割――

猿飛佐助　實川延松
三好清海　阪東豊昇
甲賀龍雲齋　市川海老三郎
漁師綱右工門　實川延笑
茱屋亭主　嵐廣二
戸澤若丸　中村正二郎
松平佐倉姫　久野あかね
綱右工門娘おさよ　松葉笑子
韋駄天お六　二條玉子
その乾分七藏　中村獅哥平
綱元鯖七　大野三郎
乾分　矢野英二
お美和　南愛子

解説――江後岳翠氏の監督した連續時代映畫である。

略筋――徳川家を後に佐助の一行はお美和を加へて空巴を急いでゐた。弟道雲齋の死を聞いた龍雲齋は術にて追ひ爭つたが佐助の爲め術は破れ地下へ落された。其後尚も旅を續ける佐助は足手纏ひの二人に困つて失敗を重ね乍らも美しいお美和を庇ふ清海の勸めも聞かず佐倉姫とお美和を九度山へ歸した。其夜房州館山海岸に月を眺めてゐる折身投げせんとする濱中での評判娘おさよを救ひその父綱右工門の仇鯖七一味を懲しおさよに金を與へて清海を連れ出發した。二人は松井田驛の町端れの茱屋に休んでゐたが韋駄天お六の計略に陷つた清海はお六と共に碓氷峠にさしかゝるとお六の大勢の乾分に取り圍まれた。しかし佐助の爲めにお六一味は却つて危くなり乾分七藏と共に山を逃れやうとした時佐助等を追ふ龍雲齋と出會ひ救ひを求めた佐助、龍雲齋は又激しい術比べをする。果して二人はどうなるであらう。

寫眞　「忍術膝栗毛」海上義俠篇帝キネ江後岳翠作品。主演者の實川延松。